



橋本健一郎氏
連銀総裁が債券利回り上昇
はFRBに一段の政策余地
を与える可能性があるとし、
近く利上げする見込みなどの
発言をするなどの悪材料もあつたが、トランプ氏の
勝利を受けての「バズ」売りから、株・商品とも大幅
下落するも、勝利宣言の中でインフラ整備や大
規模減税に振れたこと、3Qの日本のGDPは前
期比プラス〇・五%、年率換算でプラス一・二%
に、一〇十月の中国不動産投資は前年比六・六%
増加、不動産販売は二六・八%増加したことから
LMEアルミニウム相場はU.P.、十一月十五日時点
一、七四八ドル(現物後場買入)と月初価格から
一五ドルU.P.の前半締めとなつた。

後半は十月の米卸売物価指数(PPI)は前
月から横ばいで〇・三%の上昇を見込んでいた
市場予想を下回ったこと、十一月の米ADP民間
雇用者数は二一・六万人増。予想の一七万人
増を上回る。十一月のシカゴ購買部協会景気指
数は五七・六に上昇しによる米利上げ観測など
のマイナス材料もあつたが、トランプミックスへの期
待感や原油の急騰や財務発表の一月の中国
製造業PMIが五〇・九と景気判断の五〇を上
回つたこと、一月の非製造業景況感指数が市場
予想を上回り、一二〇一五年一〇月以来の高水
準を回復したことを好感しU.P.、十二月六日現
在でLMEアルミニウム(現物後場)は一、七三四・五
ドルと後半スタート価格から八・五ドルU.P.し
てのスタートとなつた。

◆月間のドル/円レート (TTS)
一〇五・七六→一一三・三五(円)。

◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は
前年比三九%減の七八万一千、一六五台があつた。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は
前年比一三・七%増の八万七、七〇戸であつた。

◆貿易関連指標
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニウム新地
金が前年比三三五・一%増の二一〇t、二次合
金が一・九%増の一、五八六t、スクランプが一
輸出

生産は圧延品、二次合金とともに減少

橋本金属 橋本健一郎氏 リポート②

六・一%増の一萬二、五〇六t、アルミニ缶が五
九二%増の六、〇四一t。
輸入

アルミニ輸入は新地金が前年比四三・三%増の一
四万二、八六六t、二次合金が三・八%減の九万
三、二三三t、スクランプが二八・一%減の四九二
t、合金スクランプは四三・七%減の一、四〇一t。
■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出
荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比
一・二%減の一七万五、二〇一t。
日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム
二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一・
六%減の六万八、六七四tであった。

■概況

【自動車生産】

十一月の四輪車生産台数は七八万一千、一六五
台で、前年同月比三・九%の減少となり、三力
月ぶりに前年同月を下回つた。

輸出は四二万三、四八〇台で前年同月比一・
七%の増加。

【自動車販売】

十一月の国内自動車販売台数(軽は除く)は
二七万三、〇四二台で前年比一三・九%増と、
四力月連續プラス。このうち、乗用車一六・二%
増、貨物〇・八%増、バス九・二%増。

【住宅着工戸数】

平成二十八年十月の住宅着工戸数は八万
七、七〇戸で、前年同月比で一三・七%増
となつた。また、季節調整済年率換算値では
九八・三万戸(前月比〇・一%減)となつた。
・住宅着工の動向については、前年同月比
で四力月連續の増加となつており、利用関係
別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲
住宅ともに増となつた。

(持家)

前年同月比では九力月連續の増加(前年同
月比二二・〇%増)、季節調整値の前月比では
は五・一%減。

(分譲住宅)

前年同月比では二力月連續の増加(前年同
月比一一・七%増)、季節調整値の前月比では
三・一%減)。(六面へ続く)

アルミスクラップ需給はひつ迫

(四面より続く)

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

生産は前年比一・六%減の六万八、六七四tで三カ月ぶりマイナス。出荷は一・〇%減の六万八、九一九tで三カ月ぶりマイナス。このうち、出荷先別では鉄物七・七%減、ダイカスト二・八%増、板八・六%減、押出八・四%増、鉄鋼五・九%減、合金地金メーカー三・四%減。

【アルミ圧延・押出品生産数】

一・二%減と二カ月連続マイナスの一七万五、三〇二t。

板類は生産が二カ月連続でマイナス、出荷は三カ月ぶりにマイナス(出荷は前月の一・二%増→一・八%減)。

押出類は生産・出荷とも三カ月ぶりにマイナス(出荷は前月の一・一%増→一・二%減)。

【輸入】

アルミ新地金が前年比三三五・二%増の一七〇t、二次合金が一・九%増の一、五八六t、スクランプが一六・二%増の一萬二、五〇六t、アルミ缶が五九・二%増の六、〇四一t。

【見通し】

自動車は生産が三・九%減。十一月の国内販売台数が前年比二三・九%増。生産が三カ月ぶりマイナス、販売が四カ月連続プラス。生産は三カ月ぶりに減少したが、販売が今月二桁増加! 今後の動向に注目。住宅着工の動向については、前年同月比で四カ月連続の増加となつており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となつた。今後も期待。

アルミ圧延・押出品生産数は生産・出荷共にマイナス。

アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、生産・出荷とともに三カ月振りプラス。

輸入は国内相場の低迷、円安要因を受けて全品種増加。

減少。

【スクランプ需給予想】

流通在庫は、自動車販売、住宅着工が好調な上、急激な一〇円以上の急激な円安を受け輸入塊が急騰した事から国内玉ヘシフトが進みつれて原料も激減。また来年一~三月の入札に向けての原料確保から今月も需給は引きしまる。

【価格・為替予想】

今日はトランプ米大統領の発言と米の利上げ時期に左右される。

トランプ米大統領発言に関しては、最近の潮流において保護主義、保守的な発言はマイナスよりむしろプラスに受け取られる場合が多いため、受け取り方に注意が必要である。

市中が期待しているのは米国のインフレ計画など発言、よりリアリティのある計画が期待される。

それらを踏まえた十二月のアルミ価格は、トランプ米大統領が米国インフラ整備などにおいてよりアリティのある発言をし、十二月の利上げが先送りされた場合、十一月一段高の一、八〇〇ドルを予測。いずれかの場合は一、七五〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合、十一月後半安値の一、七〇〇ドル。

為替は米大統領のインフラ発言や十二月の利上げ時期とその結果次第ではないか。それを踏まえ、予測は上値はトランプ米大統領が追加的なインフラ発言がなされ、十二月の利上げが実行された場合、十一月後半安値の一〇九円台(TTM)を予測。いずれも行われなかつた場合、現状の一、四〇円を予測。

スクランプ購買価格に関しては〇・一〇円高程度と予測している。

◇KLT Mすず相場
 一一・〇五〇

八日 十一・〇五〇

二・〇五〇

九日 二・〇五〇

米ドル
 一〇・一七